



NEGORO 根来 — 赤と黒のうるし

会期 | 2025年11月22日(土)～2026年1月12日(月・祝)



サントリー美術館(東京・六本木)は、2025年11月22日(土)から2026年1月12日(月・祝)まで「NEGORO 根来 — 赤と黒のうるし」を開催いたします。

中世に大寺院として栄華を極めた根来寺^{ねごろじ}(和歌山県)で作られた質の高い朱漆器は「根来塗」と呼ばれて特別視されてきました。堅牢な下地を施した木地に、黒漆の中塗と朱漆を重ねた漆器(朱漆器)は、それ以前の時代から各地で作られてきましたが、江戸時代以降に「根来」の名で呼ばれるようになります。それらは、寺院や神社などの信仰の場で多数使われただけでなく、民衆の生活の中でも大切にされました。「根来」独特の力強く、しなやかな姿は、現代においても多くの国内外のコレクターや数寄者の心をとらえてやみません。

本展は、根来寺が繁栄を極めた中世の漆工品を中心に、その前後の年紀を有する品や伝来の確かな名品・名宝を一堂にご紹介いたします。中世に花ひらいた、日本を代表する漆の美を心ゆくまでお楽しみください。

※本展では、根来寺で生産された朱漆塗漆器を「根来塗」、根来寺内で生産された漆器の様式を継承した漆器、または黒漆に朱漆を重ね塗りする技法そのものを「根来」と称しています。

展示構成

※展覧会会場では、章と作品の順番が前後する場合があります。また、展示内容は予告なく変更される場合があります。

第1章 根来の源泉



重要文化財 瓶子 貞和2年(1346)銘 一對二口 ^{そうしゃみくまり}惣社水分神社
写真提供:宇陀市教育委員会事務局 文化財課 【通期展示(入替あり)】

瓶子 一口
サントリー美術館 【通期展示】

赤や黒の漆で彩られた木製品は、先史時代から人びとに重宝されてきました。その歴史は今日「根来」と称するものよりも古く、現在の研究で判明しているだけでも7500年前まで遡ります。

赤は太陽の色、生命の色など神秘的かつ呪術的な意味合いが込められたとされ、縄文時代には櫛や腕輪、器などに赤い漆が塗られています。黒はすべてを包み込む闇の色、赤とは対照的な色ですが、どちらも色という概念が誕生する前から人々の感覚に根差していた、原初的な存在といえるでしょう。特に赤い漆の顔料は、鉄を主成分とする弁柄^{べんがら}に始まり、水銀を主成分とする朱、鉛を主成分とする鉛丹^{えんたん}、これらを混合したものもあり、実に多彩です。「まそほ」(真緒・真朱)として特別視された天然の辰砂^{しんしゃ}を含め、これらを駆使した朱漆塗漆器(朱漆器ともいう)は非常に貴ばれ、神仏に捧げられたほか、権力の象徴にもなりました。

本章では、赤と黒の漆工品の中から、「根来」という呼び名が定着する以前の時代の名品を中心にご紹介いたします。

主な出品作品

- | | | |
|-----------------------|----------------|-----------------------|
| ・重要文化財 楯 | 嘉元3年(1305)銘 二面 | ^{おおみわ} 大神神社 |
| ・国宝 唐櫃(熊野速玉大社古神宝類のうち) | 一合 明德元年(1390) | 熊野速玉大社 |
| ・重要文化財 折敷(角切・入角)・擎子 | 長祿元年(1457)銘 | ^{ますみだ} 真清田神社 |
| ・重要文化財 油壺 | 元徳2年(1330)銘 二口 | 東大寺 |

第2章 根来とその周辺



重要文化財 布薩盥 二対四口 寛正3年(1462)～天文8年(1539)頃 水戸大師 六地藏寺 撮影:山崎兼慈
【展示期間:12/17～1/12】

「根来」を語る上で欠くことのできないのが根来寺の存在です。平安時代末期、高野山の学僧であった覚鑑上人(1095～1143)が開創して以来、同寺は新義真言宗の聖地となり、豊臣秀吉によって焼き討ちされる天正13年(1585)直前の最盛期には山内に数千もの塔頭が軒を連ねたといわれています。ルイス・フロイスの『日本史』に拠れば「彼らの寺院なり屋敷は、日本の仏僧寺院中、きわめて清潔で黄金に包まれ絢爛豪華な点において抜群に優れている」と、当時最も栄華を誇った寺院であったと伝えています。

「根来」という呼称は、この根来寺で朱漆塗漆器を生産したという伝承に基づきます。ただし、同様の様式の漆器は、根来寺以外の各地で作られ、時代を追うごとに宗教儀礼から日常の場にまで広がりました。

本章では「根来寺坊院跡」の発掘調査、聖教などの寺院資料等から、根来寺及び周辺の様子を垣間見るだけでなく、同時代の各地で作られた「根来」も合わせて一堂に集め、ご覧いただきます。



重要文化財 太鼓樽 文明5年(1473)銘 一基 堺市博物館 【展示期間:12/17～1/12】



湯桶 一合 サントリー美術館
【展示期間:11/22～12/15】

- 主な出品作品**
- ・和歌山県指定文化財 丹生明神坐像 一軀 鎌倉時代 13世紀 龍谷寺
 - ・根来寺遺跡 広域農道谷部A地区SX-14出土資料
朱漆塗椀「延命院」・朱漆塗椀「川大夫」
二点 室町～安土桃山時代 15～16世紀 和歌山県教育委員会
 - ・重要文化財 二月堂練行衆盤 永仁6年(1298)銘 十一枚のうち六枚 東大寺
 - ・菓子器 天正元年(1573)銘 興福寺一乗院伝来 一合 名古屋市博物館

第3章 根来回帰と新境地



輪花盆 一枚
黒澤明旧蔵 北村美術館 【通期展示】



根来塗平棗 黒田辰秋 一合
20世紀 鍵善良房 撮影:伊藤信 【通期展示】

天正13年(1585)に根来寺が衰退してまもなく、江戸時代初期には朱漆塗漆器としての「根来」が取り沙汰され、のちの時代にも大きな影響を与え続けました。その影響は在銘品の蒐集や古例を研究、模写するのみならず、「根来」の歴史的変遷を辿るところにまで及びます。江戸時代後期の『紀伊国名所図会』では、かつて根来寺一円で朱塗の椀や折敷(食べ物^{おしき}を盛った器を置く盆)が作られたといい、黒川眞頼、高木如水をはじめとする明治時代の知識人たちも「根来」の足跡を積極的に探し求めました。

生活に根差した「根来」の中に美を見出し、愛好する動きは、大正15年(1926)に柳宗悦、河井寛次郎、濱田庄司らによって提唱された民藝運動も相まって、戦後には確たるものになります。「根来」は実用品として、また根来寺への憧憬や追慕の念を抱くための役割だけでなく、愛でるべき美術工芸品として位置付けられるようになりました。そして現在、「根来」は本来の用途や鑑賞の枠を超え、より純粋で精神的世界を表現する境地に至っています。

本章では、かつて白洲正子、松永耳庵、黒澤明などの著名人たちが集め、生活の中で愛した「根来」を中心にご紹介することで、その魅力をご堪能いただきます。

主な出品作品

・茶器	一合 森川如春庵旧蔵	個人蔵
・盃	一口 白洲正子旧蔵	個人蔵
・大盤	一枚 松永耳庵旧蔵	MIHO MUSEUM
・瑠璃の浄土 杉本博司	一具 平成17年(2005)	小田原文化財団

NEGORO 根来 – 赤と黒のうるし

会 期	2025年11月22日(土)～2026年1月12日(月・祝) ※作品保護のため、会期中展示替を行います。
主 催	サントリー美術館
協 賛	三井不動産、鹿島建設、竹中工務店、サントリーホールディングス
後 援	岩出市教育委員会
特別協力	新義真言宗総本山根来寺
協 力	根来塗曙山会
会 場	サントリー美術館 東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階 アクセス(東京ミッドタウン[六本木]まで) 都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結 東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結 東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分

基本情報

開館時間	10時～18時 ※金曜日および1月10日(土)は20時まで ※いずれも入館は閉館の30分前まで
休 館 日	火曜日(1月6日は18時まで開館)、12月30日(火)～1月1日(木・祝)
入 館 料	・当日券：一般1,800円、大学生1,200円、高校生1,000円 ・前売券：一般1,600円、大学生1,000円、高校生800円 ※中学生以下無料 ※サントリー美術館受付、サントリー美術館公式オンラインチケット、ローソンチケット、セブンチケットにて取扱 ※前売券の販売は9月10日(水)から11月21日(金)まで ※サントリー美術館受付での販売は9月10日(水)から11月3日(月・祝)の開館日のみ
割 引	・あとろ割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で100円割引 ・団体割引：20名様以上の団体は100円割引 ※割引適用は一種類まで(他の割引との併用不可)

※本展は大阪市立美術館で2025年9月20日(土)～11月9日(日)に開催される展覧会の巡回展です。

イベント情報

| 展覧会関連プログラム |

講演会「技法から見た根来——根来と他漆器の違い——」

講師：池ノ上辰山 氏（根来塗師・根来塗曙山会主宰）

日時：11月23日（日・祝）14時～15時30分

会場：6階ホール

定員：95名

料金：800円（別途要入館料）

※オンラインにてチケットをご購入ください。

メンバーズクラブ先行受付10月30日（木）10時～（席数限定、先着順）、一般受付11月6日（木）10時～（先着順）

| 呈茶席（お抹茶と季節のお菓子） |

日時：11月27日（木）、12月11日（木）・25日（木）、1月8日（木）

12時、13時、14時、15時にお点前を実施（お点前の時間以外は入室不可）

会場：6階茶室「玄鳥庵」

定員：各回12名／1日48名

呈茶券：1,400円（別途要入館料）

※13時、14時、15時の呈茶券はサントリー美術館公式オンラインチケットにて前売券販売

※12時回およびオンライン販売分に残席がある場合は、当日10時よりサントリー美術館受付にて販売
（先着順、お一人様2枚まで。混雑時は9時半以降に整理券配布）

詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。追加のプログラムを開催する場合もウェブサイトでご案内します。

お問い合わせ

一般お問い合わせ

TEL：03-3479-8600

美術館ウェブサイト

<https://www.suntory.co.jp/sma/>

広報画像のお申込み

<https://www.suntory.com/sma/press/exhibition/v94r7P/upload/negoro0821.pdf>

報道関係のお問合せ

「NEGORO 根来－赤と黒のうるし」広報事務局（株式会社TMオフィス内）

担当：馬場・永井・西坂

TEL：050-1807-2919 E-mail：negoro@tm-office.co.jp

美術館への取材に関する お問い合わせ

サントリー美術館 〔学芸〕大城 〔広報〕石松

E-mail：sma-pr@suntory.co.jp

以 上